

居沢尾根遺跡

(第7次発掘調査)

平成12年度県営圃場整備事業原村
西部地区に先立つ緊急発掘調査報告書

2001. 3

長野県原村教育委員会

諏訪南原村工業団地

表紙地図10,000分の1 ○印が居沢尾根遺跡

序

このたび平成12年度に発掘調査を実施した居沢尾根遺跡の報告書を刊行することとなりました。

発掘調査は、県営圃場整備事業原村西部地区に先立って、諏訪地方事務所からの委託、国庫および県費から発掘調査費補助金交付を受けて、原村教育委員会が実施したものであります。

旧石器時代と縄文時代の貴重な資料を発見することができました。

旧石器時代は、過去6次にわたる発掘では確認できませんでしたが、はじめて発見することができました。石器は少なかったとはいえ、新たな資料を加えることができました。本村における旧石器時代の研究において、貴重な資料になるものと思っております。

縄文時代は、本村にみられる多くの遺跡とは、その性格が違っていたようであります。早期から中期という長い時期におよぶ土器が出土しています。しかし、いずれの時期においてもその数は少ないようであります。立地など研究しなければいけないことが多々ありますが、短絡的に考えますと、居住の場というよりも狩猟にかかわった場となります。やはり、今後の研究課題を提示できた調査であったと思っております。

今回の調査にあたり、長野県教育委員会をはじめ戸沢充則・保坂康夫・武藤雄六の諸先生、お名前を明記しませんでしたが多くの方々からご指導・ご助言をいただきました。また、諏訪地方事務所をはじめとする関係機関の理解あるご配慮、発掘にかかわる多くの皆様のご協力に深甚なる謝意を表する次第であります。発掘調査報告書刊行にいたる過程において、お世話いただいた関係各位にたいし厚くお礼申しあげます。

平成13年3月

原村教育委員会

教育長 大 館 宏

例 言

1. 本報告は「平成12年度県営圃場整備事業原村西部地区」に先立って実施した、長野県諏訪郡原村菖蒲沢に所在する居沢尾根遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、諏訪地方事務所の委託と、国庫および県費から発掘調査費補助金交付をうけた原村教育委員会が、平成12年6月1日から10月6日にかけて実施した。整理作業は、平成13年1月17日から3月26日まで行なった。
3. 現場の発掘作業における遺構等の実測と記録は、平出一治・小林りえ・進藤郁代・津金喜美子・横内かおりが行い、地形測量と一部の遺構については株式会社写真測図研究所に委託した。写真撮影は平出が行った。
4. 遺物・図面の整理は、小林が行い、出土した石器については株式会社アルカの角張淳一氏に実測・原稿を依頼した。
5. 執筆は、平出が行った。
6. 本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。
なお、本調査関係の資料には、42の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、会田進・角張淳一・小林公明・小林正春・小林稔・小松隆史・五味裕史・高見俊樹・戸沢充則・原明芳・保坂康夫・宮坂光昭・武藤雄六・村石眞澄の諸氏に御指導・御助言をいただいた。厚く御礼申し上げる次第である。

目 次

序	例 言	目 次	
I	発掘調査に至る経過	5
II	発掘調査の経過（抄）	5
III	遺跡の位置と環境	7
IV	調査方法	8
V	遺構と遺物	8
VI	まとめ	14
	引用参考文献	調 査 組 織	
	報告書抄録		

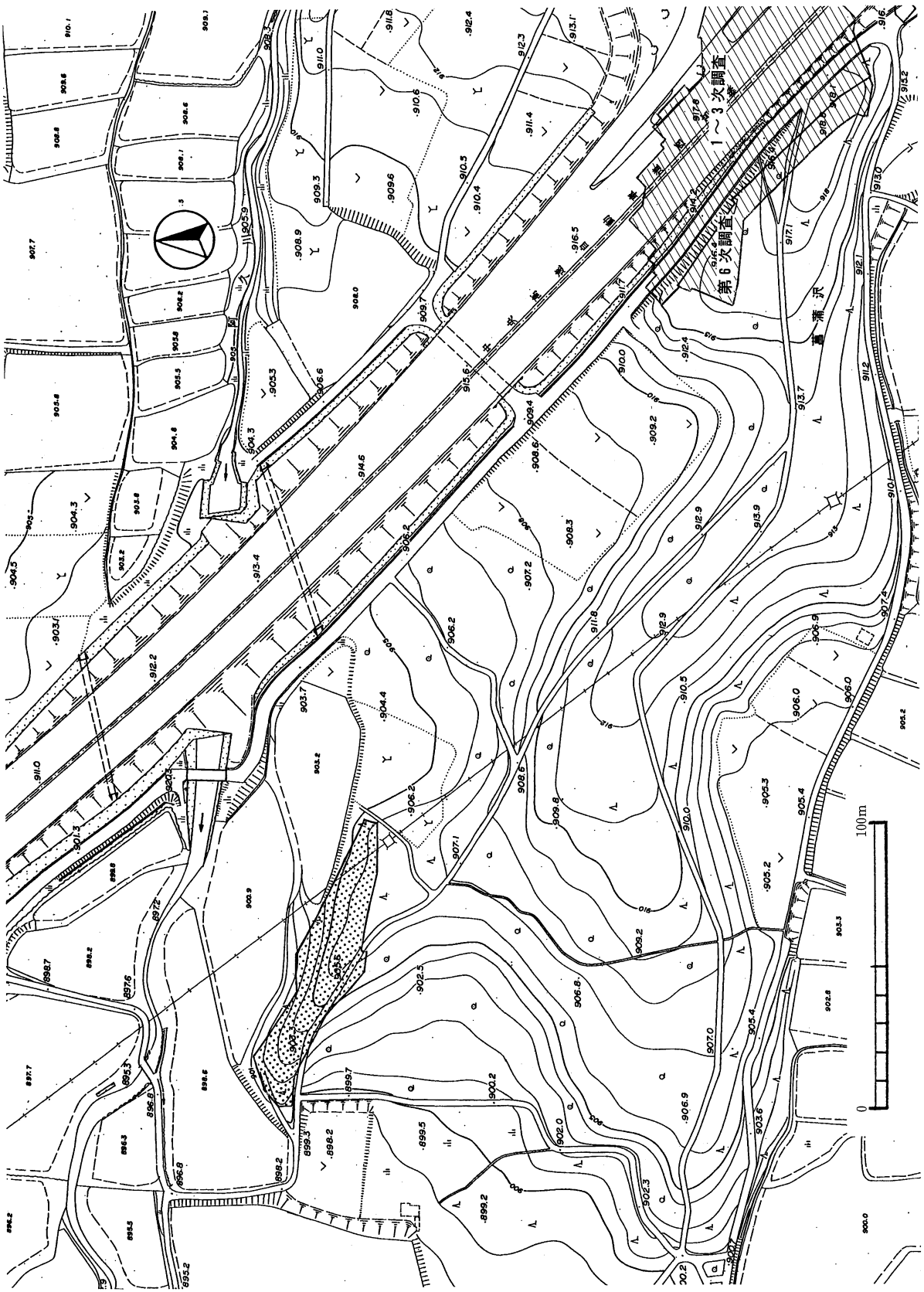
I 発掘調査に至る経過

平成12年度県営圃場整備事業原村西部地区に係る緊急発掘調査を阿久遺跡で進めている折、居沢尾根遺跡の北斜面の伐採を知り、諏訪地方事務所土地改良課と原村役場農林課に問い合わせた所、伐採は県営圃場整備事業原村西部地区に伴うものであることがわかった。そこで、関係機関と打合せを進める中で平成12年5月24日に「平成12年度県営圃場整備事業原村西部地区にかかわる埋蔵文化財保護協議」を行ない、遺跡は現状のまま保存していくのが最も望ましいことであるが、原村の農業の将来を考えると農地の整備は必要なことであるうえに、農業者から強い要望もあり「記録保存やむなき」との考えに落ち着き、平成12年度に緊急発掘調査を実施し、記録保存をはかる方向で同意をみる事ができた。出席者は長野県教育委員会文化財・生涯学習課、諏訪地方事務所土地改良課、原村役場農林課、原村教育委員会の4者である。

その後も協議を重ね調査日程等の確認をおこない、原村教育委員会は、国庫および県費から発掘調査補助金交付を、また、諏訪地方事務所から緊急発掘調査の委託をうけ、平成12年6月1日から10月6日にわたって緊急発掘調査を実施した。

II 発掘調査の経過（抄）

- 平成12年6月1日 発掘準備をはじめめる。
- 12日 重機によるトレンチ掘りをはじめめる。
 - 15日 トレンチ内の精査をはじめめる。縄文土器片と黒曜石がわずかに出土する。
 - 17日 引き続きトレンチ内の精査を行い、縄文土器片が出土したため、重機による表土剥ぎ、遺構の検出作業をはじめめる。
 - 22日 住居址の落ち込みを確認し、便宜上第48号住居址と呼ぶことにする。
 - 30日 小竪穴と思われる落ち込みを確認する。後日の調査で炭焼きの穴と判明する。
- 7月3日 集石を確認し集石1と呼ぶ。付近から早期の表裏縄文土器が出土する。
- 5日 小竪穴の落ち込みを確認し小竪穴216と呼ぶ。
 - 6日 第48号住居址の精査をはじめめる。
 - 15日 調査を一時中断する。
- 9月1日 調査を再開する。遺構の検出作業を行う。
- 21日 旧石器時代の調査をはじめめるが、石器の出土はない。
- 10月6日 片付けを行い調査を終了する。

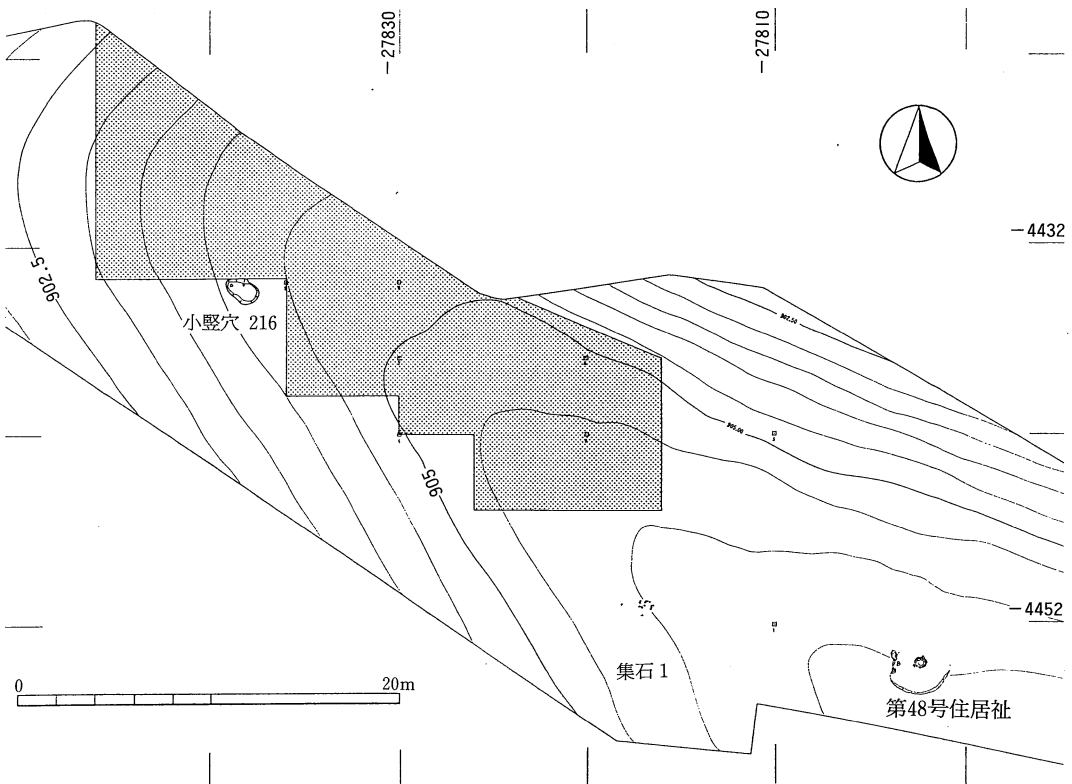


第1図 発掘調査区域図・地形図 (1:2,000)

III 遺跡の位置と環境

居沢尾根遺跡（原村遺跡番号42）は、長野県諏訪郡原村菖蒲沢区の西方約750mに位置する。このあたりは八ヶ岳西麓のほぼ中央に位置し、東西に細長く発達した当地方に特有な大小様々の尾根がみられる。それらの尾根上から斜面には縄文時代を中心とした数多い遺跡が埋蔵されている。

その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する阿久川と菖蒲沢川という2本の小河川によって北と南を浸蝕された東西に細長い尾根上から斜面に立地している。尾根は先端部で二つに分かれるが、分かれた北側のやせ尾根の先端部が調査地である。すでに水田造成で削平された所もあったが、ここだけが阿久川の沢に突き出ている。地目は山林で地味は良い。標高は945m前後を測る。本遺跡は、昭和50～52年度に中央自動車道の建設、また、昭和56年度と平成11年度に村道改良事業、平成6年度には県営圃場整備事業原村西部地区に先立つ発掘調査を行い、遺跡の半分くらいはすでに記録保存され、当地方における典型的な縄文時代中期と平安時代後期の集落遺跡であることがわかってきている。



第2図 遺構配置図 (1:400)

IV 調査方法と層序

発掘調査の対象は第1図に示したように、平成12年度県営圃場整備事業原村西部地区にかかる遺跡の全域におよび、調査した面積は1,467㎡である。

対象地は遺跡の北縁部にあたるが、遺跡の範囲が不明瞭であったことから、まずその範囲を明確にするための調査からはじめた。平面直角座標系（国家座標）第VIII系に合わせた $X = -4452$ 、 $Y = -27810$ （居沢尾根遺跡基準杭I Z 1）を基準とし、Y軸に合わせたトレンチを設定し、重機による掘削、引き続き人力でトレンチ内の精査を行った。土器片の出土を確認した時点で表土剥ぎに切り替え、現れたローム層の上面を人力にて削り遺構の検出につとめた。その結果、住居址1軒、小竪穴1基、集石1基を発見している。

遺構の検出作業の折に、たまたま旧石器時代の台形様石器が出土した。その出土地点を中心に298㎡の調査を行ったが、新たに石器を発見することはできなかった。

遺構の実測等は、国家座標に従った測量基準杭を打設して行った。

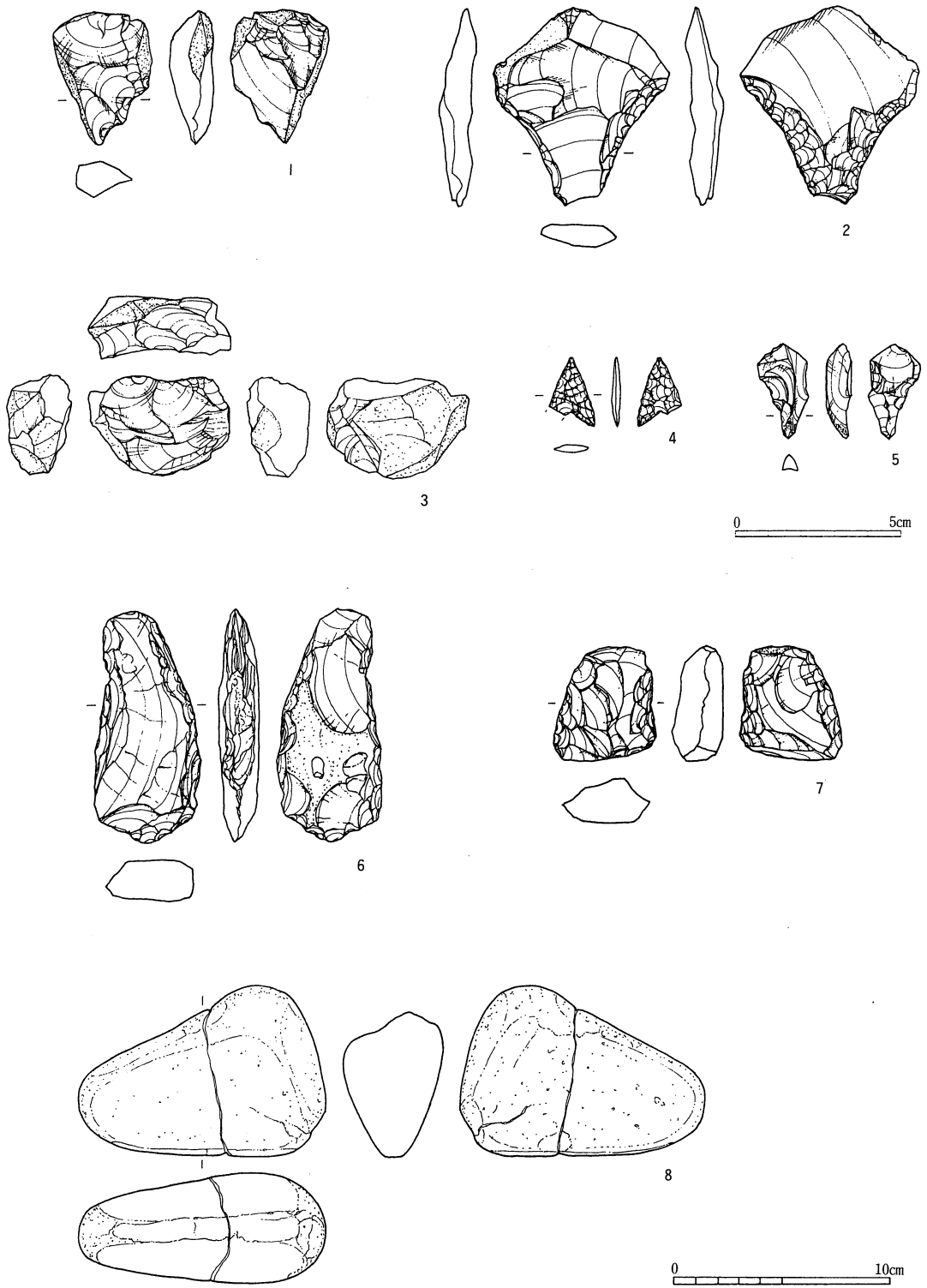
層序は、山林であったが斜面ということもあり、その堆積は薄かった。第I層は茶褐色土で山林の表土層でパサパサしている。第II層は黒褐色土層でややしまっている。第III層は黄褐色土でソフトロームへ漸移する。傾斜が強い所では第II層と第III層は認められず、表土層の直下がローム層になる範囲が広がった。また、新しい炭焼きの穴や植林と思われる掘りかえしによる攪乱が著しく、総体的には不安定であった。

V 遺構と遺物

1 旧石器時代の遺物（第2図、第3図）

縄文時代の遺構検出作業の折りに、台形様石器が出土した地点を中心に、第2図の網点スクリーンで示した298㎡の調査を行ったが、新たに石器を発見することはできなかった。

縄文時代の遺構検出の折りに出土した石器3点を図示した。第3図1は石錐と判断した石器で、斜め打ちの剥片を素材にしている。背面側にある3枚の大きな剥離面は二次加工である。2は台形様石器で、斜軸剥片を素材にしている。側辺を刃部に残し、打面を除去しながら基部をつくりだしている。3は石核である。小さな礫を素材に、先の尖ったハンマーの直接打撃で剥片を剥離している。3点とも黒曜石製である。



第3図 石器実測図 (1~5=1:2、6~8=1:3)

2 縄文時代の遺構と遺物

第48号住居址 (第2図、第3図、第4図)

緩やかな北斜面で検出した円形を呈する竪穴住居址である。

自然傾斜の南北方向で土層の観察を行なったが、埋土は薄くすでに北側は床面までが流失していた状態で、不明瞭な点の方が多かったが、三角堆土と逆三角堆土の発達がみられる自然埋没と考えられるものであった。

残存部はローム層中に構築されていたが、壁は低くグラグラと立ち上がり不安定である。床面はほぼ水平であるが軟弱で明確ではない。柱穴は確認できなかった。炉址は円形石囲炉でほぼ中央にあるが、焼土はそれほど強くない。壁際で出土した3個の石は祭壇状の施設がくずれたものと思われる。

発見した遺物は少ない。土器は図示しなかったが無文の小破片がある。石器は第3図6の流紋岩製の打製石斧、図示しなかったが当地方で一般的にみられる安山岩製の凹石、黒曜石の剝片等がある。年代の指標となる土器の出土はなく、明確な帰属時期を示すことができない。祭壇と思われる石のあり方、石器のあり方からみて中期も後半であろうか。

小竪穴 216 (第2図、第4図)

楕円形を呈する小竪穴で、底は船底状であり壁はグラグラと立ち上がっている。検出面で握り拳大の礫2点が出土したが性格は不明である。帰属時期を示す遺物の出土はない。ここでは縄文時代として報告しておきたい。

集石 1 (第2図、第3図、第4図)

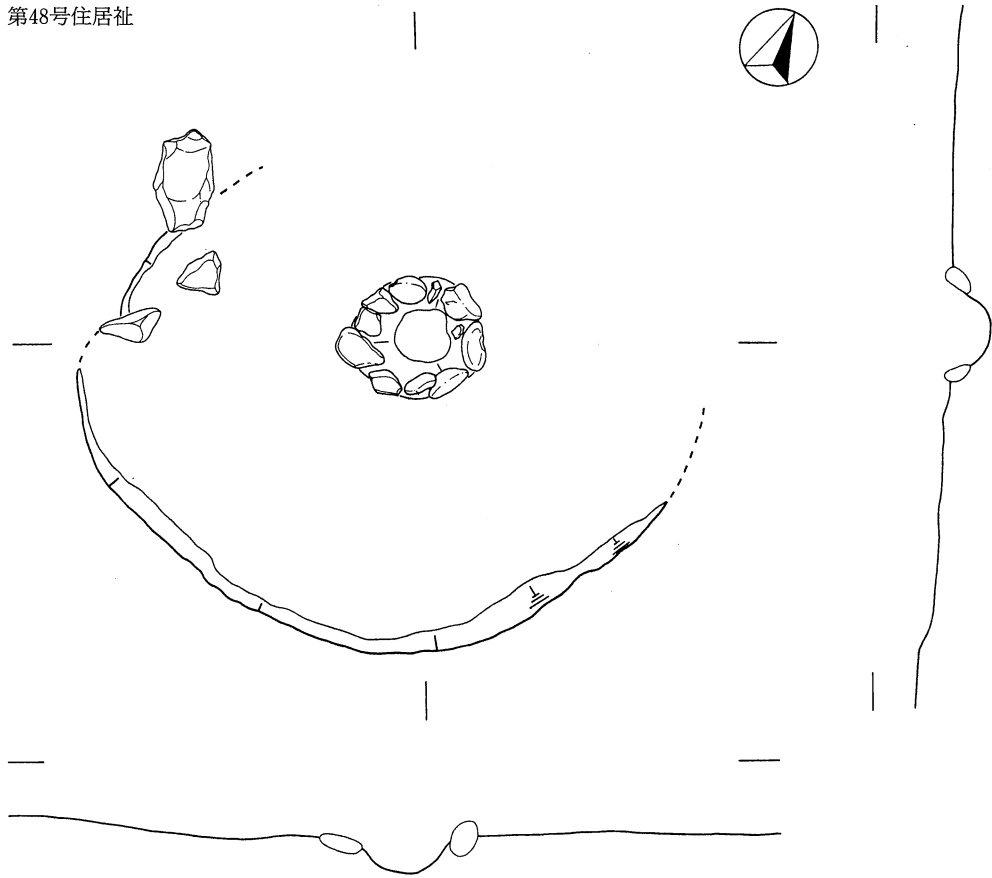
ソフトローム直上に握り拳大の礫が集中していた。集石炉の残骸とも考えられるもので、便宜的に集石1としたがその性格は不明である。近くから縄文時代早期の第7図1～3の表裏縄文土器片、第3図8の特殊磨石が出土している。

3 遺構に伴わない遺物

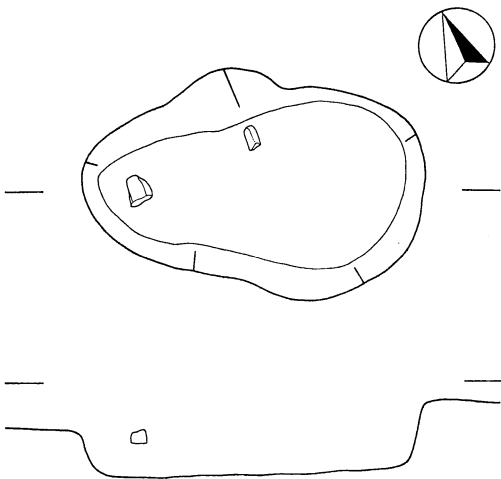
土器 (第7図、第8図)

土器は少ない上に小破片ばかりで、約半分程を図示した。縄文時代早期～中期のものがある。第5図1～11は早期で、1～3の表裏縄文土器は摩滅が著しい。4と5は押型土器。6は条痕文系土器で補修穴穿たれている。9と10は同個体である。14は48号住居址からの出土であるが混入であろう。12～20は前期。21と22は口縁部である。23～28は中期で、24～26は同個体で48号住

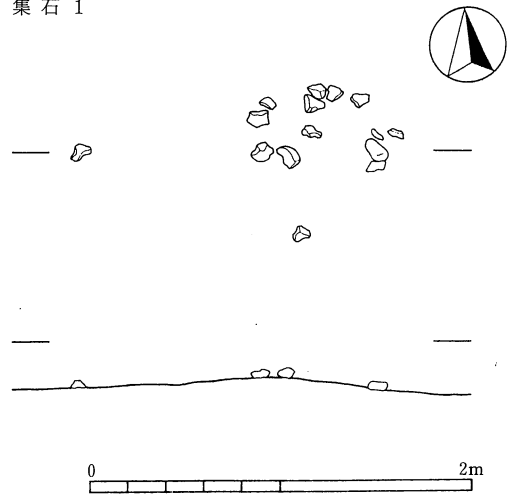
第48号住居址



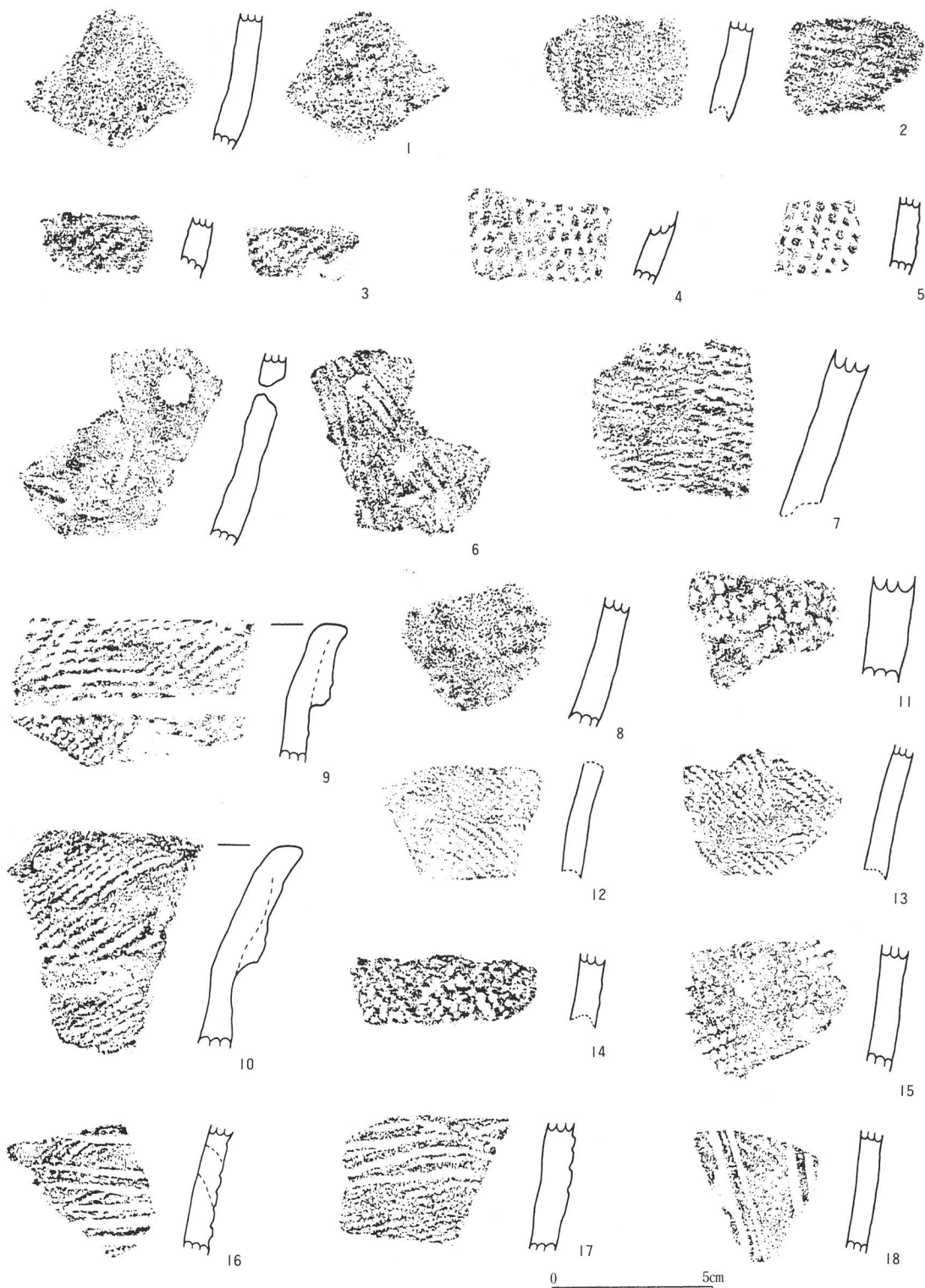
小竪穴 216



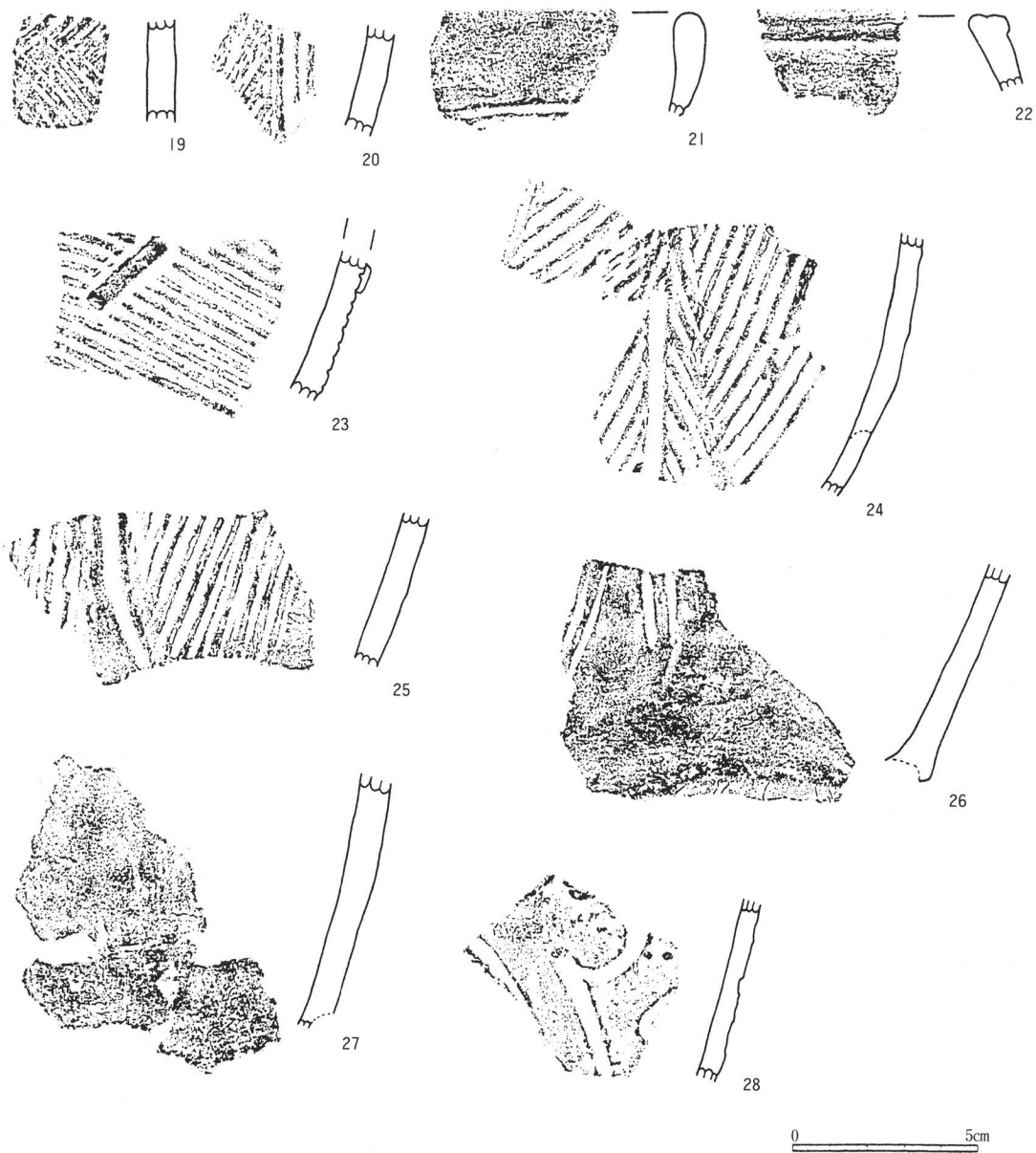
集石 1



第4図 第48号住居址・小竪穴 216・集石 1実測図 (1:40)



第5图 土器拓影图 1 (1:2)



第6図 土器拓影図2 (1:2)

居址近くからの出土である。28は後期初頭かもしれない。

石器 (第3図)

石器は4点を図示した。第3図4は透明な黒曜石製の石鏃、5は黒曜製の石錐、7は頁岩製の打製石斧の破損品で、再加工痕が認められる。8は安山岩製の特殊磨石で2つに割れたものが接合する。

VI ま と め

本調査は限られた狭い範囲であったが、旧石器時代と縄文時代の調査を行った。縄文時代は住居址1軒と時期不詳の小竪穴1基、集石1基で、いずれの遺構も帰属時期を明確にできる資料の出土はなかった。また、遺構外からの遺物の出土も極めて少ない。この事実が調査地点の性格を物語っているものと思われる。

長い時期におよぶ遺物の発見はあるが、一貫してどの時期も遺物は少なく、居住の場と考えるには無理があるようである。阿久川の沢に突きでた尾根であり、沢全域を見渡せる特異な立地にあることからみて、狩猟にかかわった場と考えた方が良いのかもしれない。いずれにしる遺跡の外縁部のあり方の一端を窺うことができたといえよう。

引用参考文献

- 1985 07 原村役場『原村誌 上巻』
1981 10 長野県教育委員会『昭和51・52年度 長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 原村その4』
1995 03 原村教育委員会『原村の埋蔵文化財33 居沢尾根遺跡(第5次発掘調査) 平成6年度県営ほ場整備事業原村西部地区に伴う緊急発掘調査報告書』

調査組織

事務局 原村教育委員会

教育長 大館 宏

学校教育課長 小林 鏑晃

文化財係長 平出 一治

文化財係 中村 恵子

調査団 団長 大館 宏(原村教育委員会教育長)

調査担当者 平出 一治(文化財係長)

調査参加者 発掘作業 吉川 幸子 久根 種則 小島久美子

小島 政雄 小林 りえ 小松 弘

五味さゆり 五味八代江 清水 正進

進藤 郁代 田中 初一 津金喜美子

西沢 寛人 横内かおり

整理作業 小林 りえ

報告書抄録

ふりがな	いざわおねいせき							
書名	居沢尾根遺跡(第7次発掘調査)							
副書名	平成12年度県営圃場整備事業原村西部地区に先立つ緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	原村の埋蔵文化財							
シリーズ番号	58							
編著者名	平出 一治							
編集機関	原村教育委員会							
所在地	〒391-0192 長野県諏訪郡原村12080 TEL 0266-79-7930							
発行年月日	西暦 2001年03月							
よりがな 所収遺跡	よりがな 所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いざわおね 居沢尾根	ながのけんすわぐん 長野県諏訪郡 はらわらしやうぶざわ 原村 高蒲沢	203637	42	35度 57分 33秒	138度 11分 31秒	20000601 20001006	1,467	平成12年度 県営圃場整 備事業原村 西部地区
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
居沢尾根	集落跡	旧石器時代 縄文時代	住居址	1軒	台形様石器	長い時期におよぶ遺物 が出土したが、どの時 期も遺物は極めて少な い。狩猟にかかわった 場であろうか。		
			小竪穴	1基				
			集石	1基				

原村の埋蔵文化財58

居沢尾根遺跡（第7次発掘調査）

平成12年度県営圃場整備事業原村
西部地区に先立つ緊急発掘調査報告書

発行日 平成13年3月

発行 原村教育委員会
〒391-0192 長野県諏訪郡原村
TEL 0266-79-7930

印刷 もえぎ企画書籍
〒394-0043 岡谷市御倉町2-21
TEL 0266-22-4892

